

松龍

1964年東京生まれ。ITエンジニアをしながら、写真を中心表現するにアーティスト。Charles Robert Darwin、長谷川真理子らに哲学的影響を受け、神島美明、高崎勉らから直接指導を受けた。

僕は、アートとサイエンスの源泉は、同一であると考えている。最も重要なことは、「問題の解決」ではなく、「問題の発見」であるということが共通している。「そうか分かった」よりも「あれ、何か変だな」のほうが遥かにエキサイティングなのである。

■主な展覧会、写真活動歴

- 2017 個展「宙と墨(sky and ink)」をSONY Imagining Gallery
- 2017 CP+御苗場(maturyu&maturi-co.) / 富山ガラス美術館
- 2018 CP+御苗場(maturyu&maturi-co.)
- 2019 CP+御苗場(maturyu&maturi-co.)
/ Abox Photo Academy 展
- 2020 富山ガラス美術館 Abox展 招待作家

■講師

- 2015-2017 PHaT Photo 写真教室 講師
- 2017-現在 Abox Photo Academy 講師

作品介绍Webサイト

<https://www.maturyu.com/>



Maturyu ARTIST

Entropy II

人が"生きる"とは、体の細胞からわき上がる欲求と理性の間でせめぎ合うことだ。

酒が飲みたい。パチンコをやりたい。旅をしたい。異性とふれあいたい。品薄になった商品を手に入れたい。

そんな人々の行動の源泉を細胞の叫びとして受け止めていた。僕も同じように細胞の叫びと理性との間で揺れていた。

毎日の散歩で石垣を見つめていると、「この世には"生きる"ことよりも大きな法則がある。」ということに気がつく。人間の欲求も理性も関係ない法則だ。

この宇宙を支配する法則として"Entropyの増大"がある。

水に垂らしたインクのようにすべてのものは広がり続ける。

地球は自転し、太陽の回りを公転し、季節がおとずれ、植物の根や風雨や熱が石垣を砕いてゆく。

松龍